

# 1月の政治・経済イベント

## 重要 01 世界の経済成長率見通しを下方修正へ

1月にIMF「世界経済見通し（WEO）」が公表されます。世界的に金融引き締めが継続されるなか、世界経済の先行きへの不透明感を背景に世界の経済成長率見通しは下方修正されるとみられています。2023年の経済成長率予想を見ると、7月改定では世界は2.9%、米国は1.0%、ユーロ圏は1.2%の見通し、10月改定は世界が2.7%、米国は1.0%、ユーロ圏は0.5%となり、ユーロ圏については0.7%下方修正されましたが、今回の改定でどの程度下方修正されるかに注目が集まります。

## 重要 02 米金融政策を左右する労働市場の動向に注目

12月FOMC（米連邦公開市場委員会）会合後、パウエル議長は「物価安定のため、当面は金融引き締めを継続する必要がある可能性が高い」とし、労働市場の逼迫による賃上げが続いていることを指摘しています。米国の労働市場は賃金が高止まりしていますが、秋以降、米ハイテク企業で大幅な人員削減が発表されており、人員削減の増加は労働市場の緩和となり、賃金の伸び鈍化が期待されます。今後発表される失業率や新規失業保険申請件数など、労働市場の動向に注目が集まります。

## 重要 03 成長重視のスタンスを打ち出した中国経済

中国では、2023年の経済政策運営の重点を決定する中央経済工作会議が開催されました。企業寄りの政策や不動産市場への追加支援などを示唆、成長重視の姿勢への転換を示しました。一方、「ゼロコロナ政策」緩和に伴い、新型コロナウイルス感染が拡大しています。感染拡大と成長重視の政策とのバランスが必要となり、今後の新型コロナウイルス感染拡大の動向を注視する必要があります。

### 1月の主な政治・経済イベント

	国・地域	予定
4日(水)	米国 	ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数（12月）
6日(金)	米国 	雇用統計（12月）
6日(金)	ユーロ圏 	消費者物価指数（12月）
10日(火)～ 20日(金)	中国 	鉱工業生産指数、小売売上高、固定資産投資（12月）
12日(木)	米国 	消費者物価指数（12月）
13日(金)～ 27日(金)	中国 	10-12月期GDP
18日(水)	日本 	金融政策発表
20日(金)	日本 	全国消費者物価指数（12月）
26日(木)	米国 	10-12月期GDP（速報値）
1月中		IMF（国際通貨基金）世界経済見通し発表

上記は、すべて現地時間で作成しており、作成時点で利用可能な最新の情報を用いておりますが、発表日は変更される可能性があります。  
 (出所) Bloombergデータ等より野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。